

経営のヒント173 「コロンブスの卵」

常識とは？

クリストファー・コロンブスがサンタ・マリア号に乗り、1492年に大西洋を横断し、アメリカ大陸を発見するという偉業を達成しました。

帰国の式典で、彼の成功を妬む人々から、このように言われたのでした。

「誰でも西へ行けば、陸地が見つかる。造作もないにとだ」

そこでコロンブスは、彼らに質問しました。

「どなたか、この卵を机の上に立てて下さい」

誰も立てることができませんでした。

するとコロンブスは、卵の底を少し割ってから、机の上に立てて見せたのです。

それを見た人々は、すぐにこう言いました。

「そんな方法なら誰でもできる」

そこでコロンブスは、こう言い返したのでした。

「人のした後では造作もないにとだ」

常識とは、いったい何でしょうか？

辞書には「普通、一般人が持ち、また、持っているべき知識」と記されています。

つまり常識とは、あくまで「その集団の中での大多数の人が持っている共通の知識」であり決して「正しい知識」ではないのです。

たとえ、思い込みがその個人の未知から生じたものであったとしても、もしその思い込みがその集団の大多数に伝播すれば、それは常識になってしまうということです。

常識が、あなたの知識をゆがませ、あなたの感覚を鈍らせているのです。

全ての人がこの常識に囚われているのです。

だとしたら、この常識から自由になる術を身につける必要があるのです。

<経営のヒント>

常識を疑え！

常識とは、過去の経験により、脳がつくりあげた判断基準です。

その時の環境が変われば、その時にベストだった判断基準も変わって当然なのです。

しかし、人間の脳は、困ったことに勝手に、本人の意思とは別に反応するのです。

そこで、視点を換える必要があるのです。

「モノ」や「コト」から「機能」に視点を移すのです。

手段から目的へ、部分から全体へ

今、現象として見えている「モノ」や「コト」から

その奥にある、意味、意図、働き、役割、目的、効用、効果、性能、理由、機能を考えるのです。

常識とは、一番レベルの低い価値判断です！

常識が正しい判断かどうかは、その時の環境次第なのです！

つまり環境が変われば、常識も当然変わるのです！